

明治前期の陸軍参謀本部のインテリジェンス活動  
—主に中国、朝鮮での活動と地図作成—

2018年6月30日 第23回諜報研究会

東京経済大学名誉教授 村上勝彦

1. 『朝鮮地誌略』について
  - (1) 知られざる書
  - (2) 酒匂景信と広開土王碑拓本、李進熙の研究
  - (3) 『参謀本部歴史草案』について
  - (4) 井出孫六著『アトラス伝説』と地図密売事件
  - (5) アジア歴史資料センターと研究条件の好転
2. 初期の隣邦派遣将校の活動
  - (1) 西力東漸と中華帝国の解体過程
  - (2) 征韓論、台湾出兵、江華島事件、琉球処分と情報活動
  - (3) 「参謀」と兵要地誌
  - (4) 清国駐在体制の始まり
3. 参謀本部設立と隣邦軍事偵察体制の確立
  - (1) 参謀本部体制の確立・拡充とその中心人物
  - (2) 背景にある陸軍全体の体制整備
  - (3) 清国軍事偵察体制の確立
  - (4) 朝鮮・シベリアでの軍事偵察体制
  - (5) 「対清作戦策」と『隣邦兵備略』
  - (6) 兵要地誌活動と政治・軍事情報収集活動
4. 清国駐在体制の縮小と新たな取り組み
  - (1) 縮小の背景
  - (2) 荒尾精の商業活動と日清貿易研究所
  - (3) アジア主義の諸相
5. 派遣将校の視察ルートと地図作製
  - (1) 派遣将校の活動のあり方
  - (2) 視察活動・地図作製の段階的発展
  - (3) 「清国・朝鮮二十万分の一図」の作製とその性格

参考文献

村上勝彦「(解説) 隣邦軍事密偵と兵要地誌」参謀本部編『朝鮮地誌略1』龍溪書舎、1981年  
(1888年刊行の同書の京畿道・忠清道・咸鏡道の3冊本の復刻版)。

同「産業革命初期の日中貿易—日清貿易研究所に関連して—」『東京経大会誌』174、1992年。  
牛越国昭『対外軍用秘密地図のための潜入盗測—外邦測量・村上手帳の研究—』同時代社、2009年。

小林茂編『近代日本の地図作製とアジア太平洋地域—「外邦図」へのアプローチ』大阪大学出版  
会、2009年。

同『近代日本の海外地理 情報収集と初期外邦図』同上、2017年。

関誠『日清戦争前夜における日本のインテリジェンス—明治前期の軍事情報活動と外交政策—』  
ミネルヴァ書房、2016年。